

躍

いきいき狭山人
びと



中国語講座では身近な話題を取り入れて、楽しみながら学べるように心がけています



外国人の日本語スピーチ大会では、審査員として講評を述べる役割もこなします



料理教室で、本場、西安の中華めん打ちを披露

第二のふるさと狭山に恩返し 中国で育ち日本で生活する経験を生かし 日中友好の懸け橋になりたい

日本と中国は、政治、経済、そして文化の関わり
の深さからも、密接で
大切な関係にあります。
今回ご紹介する森文依
さん(中国名・肖湄さん)は、
中国と日本(狭山市)を結ぶ懸

け橋として、20年以上にわた
り熱心に活動されています。
森さんは中国陝西省西安市
の出身で、陝西師範大学教育
学部在学中に日本人留学生だ
った夫と出会い結婚し、来日
後は狭山市にお住まいになり
ました。現在は日本に帰化さ
れています。そして、学生時代
に教育学を学び、中国語と日
本語を話すことができること
から、中国語講師として公民
館の講座をはじめ、市内大手
自動車会社の社員向け語学教
育などを担当しています。
「中国語と日本語は、漢字を
使う共通点がありますが、発
音や文法などに大きな違いが
あります。初めは日本人に日
本語で教える難しさがあ
り、自分も勉強の毎日でした。ど
うしたら中国語を受け入れや
すくなるかを考え、日本人に
もよく知られている漢詩を教
材として使ってみたり、お料
理などを紹介して一緒に作っ
たりもしています」

公民館では中国語
講座のほかには中国家庭
料理の講師として、本場
の中華料理の作り方や
味を紹介し、中国の食
文化も伝えています。
また、狭山市では在
住外国人の増加に伴
い、日本語が分からな
い児童・生徒が小・中学
校へ編入するケースも増えて
います。森さんは、これまで12
年間にわたり、日本語指導員
として授業の補助や学校生活
の指導を行いながら、教育相
談的な側面も担ってきました。
「来日した子ども達は、言葉
の問題のほかにも、いろいろ
な事情を持っているケース
が多く、心のケアが何よりも
大事だと感じています。家庭
の問題についてもできる限り
相談相手になり、お互いの信
頼関係を築くことで、初めて
的確な指導ができるのだと思
います」と、単なる日本語指導
を超えた取り組みが求められ

る難しさを話しますが、「言葉
や生活環境がまったく違う国
で、毎日一生懸命に通学する
子ども達のためにも、日本語
指導員をこれからも続けてい
きたいと思っています。狭山
市に来て22年。皆さんに助け
ていただきながら、中国での
生活と同じくらいの年月が過
ぎました。私のふるさと狭山
のためにも、もっとお役に立
ちたいです」と、力強く抱負を
語る森さん。
これからも、その活躍は地
域の国際化と日中友好の発展
に、大きな役割を果たしてい
くことでしょう。



中国語講師・狭山市日本語指導員

森 文依(肖湄)さん(狭山台在住)

市民みなさんの声

オピニオン

成人式会場で、 今年の新成人に聞きました

あなたの将来の夢は
狭山市に望むこと
社会にどのように貢献していきたいですか



増田成美さん
(柏原在住)

看護師になって、病に苦しむ人の手助けをしたい 高齢者や子ども達が安全・安心に暮らせる市になってほしい 医療の現場で患者さんの不安を和らげ、安心して治療に専念できる環境を作ること
で社会に貢献したい



坂良輔さん
(広瀬在住)

子どもが大好きなので小学校の先生になりたい 施設整備を含めた教育環境の向上を進めて、子ども達が安心して学べるようにしてほしい 子ども達と真剣に向き合い、誠実な大人へと導くことで社会に貢献していきたい



岡山知恵子さん
(水野在住)

「美」に興味があるのでエステティシャンになりたい 若い人たちが集まる活気のある市になってほしい 女性は外見が美しくなることで心も美しく、穏やかになると思うので、世の中の女性がより美しくなるための手助けをしていきたい



岩村大輝さん
(笹井在住)

消防士になるのが目標で、災害現場でも勇気を持って行動したい 若い人が積極的に活動できるイベントを開催してほしい これからは社会の一員として自覚を持ち、何事にも責任を持って生活していきたい

皆さんの「声」をお待ちしています。
お寄せいただく際は、住所、氏名、電話番号をご記入ください。☎2954 6262(代)
✉koho@city.sayama.saitama.jp

私の宝物 ...

受け継がれていく熱い心

私は、幼いころから母が洋裁をする姿を見て育ちました。母は、手ぬぐいを縫い合わせて浴衣まで作ってしまう人で、私も見よう見まねで縫い物をしたものです。そして、手先が器用なのも親譲りで、私も社会に出て洋裁の仕事をするようになりました。



堂園治枝さん
(北入曾在住)



形は違えど受け継ぐものがあります

時代が変わり、今は幼稚園に通う孫娘が、自分で上手に考えて作ったダンボールのキリンに驚いています。

母の手ぬぐいの浴衣と孫のキリン。手先の器用さと、もの作りへの熱い心が受け継がれていることを感じる大切な宝物です。

次回は水野にお住まいの方をご紹介します。

Hello ハロー 仲間たち

Vol.342



「油絵半分、おしゃべり半分」で楽しい仲間たちです

あじさいの会

私たちは、21年前水富小学校のPTAの役員が、当時の校長先生から指導を受けて始まった油絵のサークルで、モットーの「楽しみながら自由に描くこと」を基本に、毎週火曜日に水富公民館で活動しています。

私たちの会は、会員それぞれが描きたいと思ったものを自由にキャンバスに表しています。そうすることで、作者の特徴が筆のタッチに素直に表れ、最近では、できあがったものを観ただけで、誰の作品かすぐに分かるほどになりました。また、作品展や市民文化祭に出展することで、作品の幅を広げたり、絵画技術の向上にも力を入れています。

私たちは、このサークル活動を人とのつながりやふれあいの場とも考えています。楽しいことや不安に思うことなど、何でも話し合える関係を築けていければ、人生をより豊かに過ごしていけると思います。

そんな生活のオアシスのようなサークルですので、一度見学にいらしてみませんか。問合せ天野千代子さんへ

2952 7747